

認知症に理解を・安心して暮らせる社会に



公明党
やまぐち けいこ
山口 恵子

その他の 質問事項

- ▼ 図書館のビジネス支援について
- ▼ 大雨に対する道路の日常管理について

◆地域で子育ての応援を

問 子育ては祖父母世代や地域のサポートが必要。愛情ある関わりは子どもへの愛着形成や母親の安心につながる。育児は時代の変化や医学の進歩により昔と今では違いがある。育児方法について理解を得られるよう対応を。

答 時代の流れとともに「抱っこ」や「うつぶせ寝」「日光浴」について、「オムツをはずす時期」や「食物アレルギー」の対応など常識や育児方法が変化している。世代間のギャップが埋められ、相互理解できるよう支援したい。

◆認知症の損害賠償責任

問 2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると推測される。認知症の人が賠償責任を求められるケースがある。法律上の賠償責任を負った場合保険で補償する制度があるが導入の考えは。

◆道路冠水時の安全対策

答 認知症の家族の皆さんは日頃から不安を抱えている。豊田市では一人当たりの掛け金1770円で最高補償額1億円の保険に加入している。支援について研究していく。

◆道路冠水時の安全対策

問 近年ゲリラ豪雨が多発している。市道のJRガード下、アンダーパスは冠水時の警告が分かりにくい。対策が必要ではないか。

答 通行止めの警告灯や案内看板に気づかず侵入してしまうケースがあるので確認しやすい表示を検討したい。



冠水したJRガード下の市道

どうする！風水害、豚コレラ対策



日本共産党
おざわ しんじ
小澤 彰一

その他の 質問事項

- ▼ 地域おこし協力隊、伝統産業技術継承へ
- ▼ 教職員の働き方について

◆災害対策について

問 檜川地区の屋内戸別受信機が原則なくなる。災害の状況によって警報が聞こえない可能性がある。警報をどのように徹底するか。

答 様々なメディアを通じて情報を伝える。警戒レベル3、4などの重要な情報伝達は消防団の広報活動や、区長へ直接連絡し、自主防災組織等を活用するようお願いする。

問 市内からアメダスの観測地点がなくなるが、市内の気象観測はどのように行っているか。

答 市内11か所で行い、市のホームページに掲載し、即時的に閲覧できるようにしている。HPを見やすく改善するとともに、周辺市町村のデータも見られるよう関係機関にリンクをはかりたい。

◆イノシシ被害について

問 市や関係団体が鳥獣被害への対策をとっているか。

るにも関わらず被害は相変わらず多い。加えて7月からイノシシを介して広がっている豚コレラ被害が深刻になっている。市・県はどのような対策をとっているか。

答 市は養豚農場の野生イノシシ侵入防止柵設置に対し、農家負担の経費補助をしている。死亡個体周辺の消毒、埋設処理を行い、県による経口ワクチンの緊急散布及び今後の本格散布に協力をしていく。キノコ狩り等で市民が山林に入る機会が増えることから、感染防止の免疫対策の周知を図るとともに、防疫対策マニュアルに沿って不測の事態に備えたい。



公共施設におかれた消毒槽。山道の出口は石灰を散布。R19号桜沢には消毒液を流す。